

横須賀市中小企業景況レポート

第 41 号 (令和 5 年 1 月号)

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町 11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：157社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査147社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和4年7～9月の景況感（調査時点 令和4年9月1日）
今期・・・令和4年10～12月の景況感（調査時点 令和4年12月1日）
次期・・・令和5年1～3月の景況感（調査時点 " ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページにD I 値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

* D I 値調査結果は裏面に記載

* 【 】は今期のD I 値を記載

全業種の景況感は、前期の△13Pから2P向上し、【△11P】となりました。

今期の景況感は、製造業【△9P】、建設業【△7P】、不動産業【9P】が、それぞれ6P、8P、9Pやや向上しました。卸・小売業【△10P】、サービス業【△20P】は、横這いの状況です。

項目別では、資金繰り【△11P】が8Pやや向上しましたが、他の項目は、すべて横這いの状況です。

昨年同期（令和3年10月～12月）との景況感比較は、今期構成比【△14P】が、前期構成比【△9P】より5P低下しました。円安や原材料価格高騰等の影響で引き続き厳しい状況です。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値がDI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

良い (15P以上)	やや良い (6P～14P)	変わらない (△5P～5P)	やや悪い (△6P～△14P)	悪い (△15P以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

*【 】は今期のDI 値を記載

(1) 製造業 景況感 【△9P <やや悪い> ↘】 (前期比 6P)

前期と比べ、収益【△16P】が10Pやや低下しました。その他の項目は、すべて横這いです。

次期は、売上額が低下、収益と資金繰りがやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・海外営業が可能となり、受注増、売上増となった。
- ・材料について、今は一時期に比べると若干価格が下がってきているが、鋼材屋が高いときに仕入れているものを買わねばならず、現状も価格は高いまま。価格転嫁もなかなか難しい。
- ・コロナ禍の状況を脱し、メーカーが動き始めている。材料の高騰等はあるが、受注もあり、空気感の改善が見られる。

(2) 建設業 景況感 【△7P <やや悪い> ↘】 (前期比 8P)

前期と比べ、売上額【△4P】、収益【△14P】、資金繰り【△14P】が、それぞれ14P、13P、13Pやや向上し、雇用人員【△35P】は横這いです。

次期は、すべての項目で、やや向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・受注は活況であるが、材料が2～3月頃、現在より更に3割程度値上げされる見通しで粗利確保のために受注額交渉が必要。
- ・少しだが受注の数は増えてきているが、コロナ前とまではいかないため、新たな受注先を見つけることが重要。

(3) 卸・小売業 景況感 【 Δ10P <やや悪い>  】 (前期比 Δ4P)

前期と比べ、雇用人員【Δ26P】が7Pやや向上しましたが、売上額【Δ12P】は8Pやや低下しました。収益【Δ18P】、資金繰り【Δ14P】は横這いです。

次期は、売上額、収益、雇用人員が、やや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・相変わらず諸商品の値上げ要請が続いている。電気代、仕入代、輸送費、梱包費等が高騰し、店側の努力だけでは解決の見込みがない。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響のため、人的接触のないインターネットで、日用品を中心に売上増加。引き続き、日用品雑貨を中心にネット販売は安定していくと予想。

(4) 不動産業 景況感 【 9P <やや良い>  】 (前期比 9P)

前期と比べ、雇用人員【0P】が、21P大幅に向上し、売上額【9P】、資金繰り【18P】も、それぞれ9P、11Pやや向上しました。収益【0P】は横這いです。

次期は、収益と資金繰りがやや向上し、売上額がやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・建売住宅については、ロシアによるウクライナ侵攻以降の資材不足に伴う木材等の材料費高騰の影響により利幅が縮小。販売価格も高めに設定せざるを得ない状況であり、顧客の様子見状態が続いていることで、販売鈍化している。
- ・自社所有の物件の売買が成立したことで売上増加となった。建築資材高騰等の影響もあり、横須賀市内の不動産の動きは鈍く、物件の数も少ないため売買による安定した売上を確保することは難しい。

(5) サービス業 景況感 【 Δ20P <悪い>  】 (前期比 3P)

前期と比べ、資金繰り【Δ5P】が、30P大幅に向上し、収益【Δ9P】も14Pやや向上しました。売上額【Δ5P】と雇用人員【Δ31P】は横這いです。

次期は、収益が大幅に低下し、売上額もやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・10月までは、地元応援券により売上が好調だったが、その後は新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少している。また、原材料仕入れ価格の高騰からメニュー価格の見直し、従業員削減を検討している。
- ・行動制限緩和により、全体的に売上が増えている。宿泊客の大半が全国旅行支援を利用しており、夕食では、高価格帯のメニューの注文が出るようになった。ガス光熱費及び魚介類等の材料費の値上げにより、利益は昨年と変わらない状況。

DI 値 調査結果



前・・・前期 令和4年7月～9月の景況感（調査時点 令和4年9月1日）
 今・・・今期 令和4年10月～12月の景況感（調査時点 令和4年12月1日）
 次・・・次期 令和5年1月～3月の景況感（調査時点 令和4年12月1日）

業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	162	35	33	46	14	34
今期	157	32	29	50	11	35
次期	157	32	29	50	11	35

(単位：ポイント)

業種 項目	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況	景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
良い(A)	19	20	18	14	22	22	18	17	24	24	22	16	21	27	18	18	17	14
変わらず	49	49	53	57	47	44	49	59	62	46	46	54	58	55	64	41	46	49
悪い(B)	32	31	29	29	31	34	33	24	14	30	32	30	21	18	18	41	37	37
DI値(A)-(B)	△13	△11	△11	△15	△9	△12	△15	△7	10	△6	△10	△14	0	9	0	△23	△20	△23
今-前/次-今	2	0		6	△3		8	17		△4	△4		9	△9		3	△3	
売上額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
好転(A)	25	24	19	23	22	22	18	24	24	33	26	18	29	18	18	24	26	14
変わらず	42	45	50	46	50	34	46	48	62	30	36	46	42	73	64	47	43	57
悪化(B)	33	31	31	31	28	44	36	28	14	37	38	36	29	9	18	29	31	29
DI値(A)-(B)	△8	△7	△12	△8	△6	△22	△18	△4	10	△4	△12	△18	0	9	0	△5	△5	△15
今-前/次-今	1	△5		2	△16		14	14		△8	△6		9	△9		0	△10	
収益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
増加(A)	15	18	15	23	9	13	9	24	24	17	20	12	21	18	27	9	20	9
変わらず	52	50	50	48	66	46	55	38	52	46	42	50	58	64	55	59	51	51
減少(B)	33	32	35	29	25	41	36	38	24	37	38	38	21	18	18	32	29	40
DI値(A)-(B)	△18	△14	△20	△6	△16	△28	△27	△14	0	△20	△18	△26	0	0	9	△23	△9	△31
今-前/次-今	4	△6		△10	△12		13	14		2	△8		0	9		14	△22	
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
多い(A)	2	3	3	0	3	0	3	3	3	0	0	0	0	9	9	9	3	9
適正	63	65	64	63	53	59	61	59	69	67	74	66	79	82	82	53	63	54
少ない(B)	35	32	33	37	44	41	36	38	28	33	26	34	21	9	9	38	34	37
DI値(A)-(B)	△33	△29	△30	△37	△41	△41	△33	△35	△25	△33	△26	△34	△21	0	0	△29	△31	△28
今-前/次-今	4	△1		△4	0		△2	10		7	△8		21	0		△2	3	
資金繰り	資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
余裕がある(A)	9	10	10	11	13	16	6	7	10	13	8	6	14	18	27	0	9	6
支障がない	63	69	68	60	53	40	61	72	73	61	70	74	79	82	73	65	77	80
苦しい(B)	28	21	22	29	34	44	33	21	17	26	22	20	7	0	0	35	14	14
DI値(A)-(B)	△19	△11	△12	△18	△21	△28	△27	△14	△7	△13	△14	△14	7	18	27	△35	△5	△8
今-前/次-今	8	△1		△3	△7		13	7		△1	0		11	9		30	△3	

〈参考〉昨年同期と現在の景況感比較(回答148社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	30社	20%	21%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	68社	46%	49%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	50社	34%	30%
DI値(A)-(B)		△14P	△9P

